

[EWE 先輩からのメッセージ]

人々の生活を支える 技術者として

EWE 先輩と学生との交流会にお招きいただきありがとうございます。僭越ながら EWE の先輩として、少しでも皆さまの進路選択にお力添えできれば幸いです。

私は学生時代、「誘電体材料」を専門とした研究室で研究を行っておりました。と申しましても、大学院には進学をしない選択をしましたので、研究を行ったのは就職活動が終了してからの1年弱です。大学時代の思い出は専らバトミントンサークルの活動とアルバイトです。そんな私の学生時代の思い・反省を語らせていただきます。

私は大学3年生の夏から就職活動を始めました。初めは理系職にこだわることなく様々企業の説明会・インターンシップに参加させていただきました。その中で、高い技術力を武器にバリバリと働く先輩方の姿を見て、次第に理系職に惹かれていきました。自分たちの提供するサービスが目に見えて人々の生活を支えている実感が得られれば、仕事のやりがいに繋がると考え、「人々の生活を直接支える」ことを就職活動の軸にしました。そのため、インフラ業界(鉄道・航空・携帯キャリア・電力会社)を志望しました。皆さまは「JR 東日本」と聞いて、どのような仕事を思い浮かべますか？ 駅員や運転士のイメージが強いのではないのでしょうか？ 実は鉄道業界では多くの技術者が活躍しています。その一つが「電気」です。

東日本旅客鉄道株式会社
千葉支社
千葉電力設備技術センター
大家 可純

先進理工学部
電気・情報生命工学科
大木研究室
2020年3月卒業



弊社は水力と火力発電所を有し、東日本全域に送電網があり、電車や駅設備に電気を送っています。大学で学んだことを活かしながら、発電・送電・変電・配電・消費の全てに携わることができるところに魅力を感じ、入社を決めました。実際に、自分たちが保守している電気によって、電車が動き、多くのお客さまがご利用されているのを見ると、とてもやり甲斐を感じます。

これまでの社会人生活を顧みて、学生時代に学んでいて良かったことは、電気主任技術者資格に関する科目です。在学中は単位を取ることに必死で、内容は理解できなかった部分が多くありました。しかし仕事を通じて、授業で学んだ知識と実務が繋がる感覚を味わうことができ、今となってはとても有意義な4年間であったと思っています。

一方、後悔としましては、研究活動に手を抜いてしまったことです。研究内容が仕事に直結することは少ないですが、「仮説を立て、実証する」「自分の考えを他人に伝える」「発表資料作る」「分かりやすい発表をする」など研究を進める上での過程は仕事にも共通します。これらを学生時代に鍛えておけばよかったという心残りがあります。

今皆さまは、これからの40年を決める大きな分岐点にいると思います。後悔のない、素敵な就職先に巡り会えることを心より願っております。

[ここに入力]